

科目（講座名）	音楽 I（音楽表現）	2 単位	必修選択
教科書	高校音楽 I Music View（教育出版）		

学習の目標

音楽に対する興味・関心をさらに高め、芸術的感性をより深く育てる。授業を通じて器楽・歌唱等ひとつの技術を身につけ生涯学習の基礎とする。

授業内容

- ・鍵盤楽器、ギター、ヴァイオリン等の奏法について学習し、生涯学習のための基礎技術を身につける。
- ・読譜力を身に付け楽譜を通して表現を深める。
- ・リズム打ち、コールユーブンゲン、コンコーネ等を行い演奏技術・表現技術を向上させる。

学習方法

一斉学習、グループ学習

評価の観点

関心・意欲・態度	芸術的音楽に関心を持ち、意欲的・主体的に音楽活動を行なえたか。幅広い音楽に取り組む姿勢、感じ取ろうとする姿勢があるか。
芸術的な感受や表現の工夫	音楽の美しさを感じ取りそれを表現しようとしたか、また、表現できたか。
創造的な表現の工夫	創造的に表現するイメージを持つことができたか。また、そのような表現ができたか。
鑑賞の能力	西洋芸術音楽を理解し、その良さや美しさを感じられたか。

評価方法

出席状況、授業態度、学習の取組み状況、実技課題進捗状況、実技発表および実技試験、等の観点から総合的に判断し評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点	
1	4	26	器楽	鍵盤楽器、ギター、ヴァイオリン等各自で選択した楽器の練習に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・初級から中級の技術を身につける。 ピアノ→練習曲、小曲 ヴァイオリン→練習曲、小曲 ギター→練習曲、小曲 	
	5					
	6		楽典	強弱記号、速度記号、表情記号、音符について、反復記号、コードネーム等。		<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜を読み込むために必要な基礎知識を身につける。
	7			ソルフエージュ		リズムうち・コールユーブンゲンを用いて読譜に取り組む、
				実技試験（発表）		
2	9	28	器楽・歌唱	グループで選曲しアンサンブルに取り組む。 グループ発表	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の学習をいかし、グループで協力して演奏のみでなく編曲や創作にも取り組む。楽器の用い方に工夫を凝らすようにする。 	
	10					
	11		楽典	コードネームを用いての伴奏付。実技試験。		コードネームの理論を理解し鍵盤楽器やギターの演奏に活かす。
	12			ソルフエージュ		コールユーブンゲン、コンコーネを用いて読譜・表現力を向上させる。
				器楽	<ul style="list-style-type: none"> ・中級程度の技術を身につける ピアノ→練習曲、小曲 ヴァイオリン→練習曲、小曲 ギター→練習曲、小曲 	
3	1	16	器楽・歌唱	ギター、鍵盤楽器、ヴァイオリン、歌唱等。	<ul style="list-style-type: none"> ・中級程度の技術を身につける。 	
	2			まとめ、		1，2学期に習得した技術のまとめ。
	3					

科目（講座名）	美術 I（美術表現）	2 単位	必修選択
教科書	美術 1（日本文教出版）		

学習の目標

- ・ 1,2 年次美術選択者は、美術 I、II の学習をふまえて表現と鑑賞の能力を一層高める。
- ・ はじめて美術を選択する生徒も、基礎を学びながら表現と鑑賞の能力を育てる。
- ・ 卒業後も美術に親しみ、積極的に楽しんでいく姿勢を培う。

授業内容

共通課題

「平面構成」または「立体構成」をする。

選択課題

課題を選択し計画を立てて、高校の集大成としての作品制作を行う。

絵画（油画、水彩画）、版画、木彫、平面デザイン（イラストレーション、ポスター）他
作品鑑賞

学習方法

講義

個人制作

複製画、DVD やビデオ等による鑑賞

評価の観点

関心・意欲・態度	美術を愛好し、表現の主題や形式などに幅広く関心を持ち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。
芸術的な感受や表現の工夫	感性を働かせて美術のよさや美しさを感じ取り、豊かに発想し創造的表現を工夫する。
創造的な表現の技能	創造的な表現をするために材料・用具を生かして表現する技能を身に付けている。
鑑賞の能力	作者の心情や意図と表現の工夫、生活や自然と美術との関連、日本の美術の歴史などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。

評価方法

上記の観点について、出席状況、授業態度、制作過程や作品・レポート等の提出物の内容、鑑賞時の意見等を、年間を通じて総合的に評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	2	自宅学習	調べ学習	調べ学習
		2	オリエンテーション	一年間の流れを確認する	
	5	2 6	選択課題	選択を決め、計画表を作成。各自の計画に従って制作を進める。 ①絵画（油絵、水彩） ②版画 ③木彫 ④平面デザイン（イラストレーション、ポスター） ⑤その他	各自で計画をたて、主体的に活動する。 必要な用具、表現材料の準備をする。 スケッチを重ね、イメージを顕在化させる。 度々、計画を見直し、時間配分を検討する。
	6			各自の計画に従って制作を進める。 作品のねらいと素材や技法の工夫について検討、下絵から本制作へ)	上級生の作品や作家の作品鑑賞を通して、完成度を高めるための技法・表現の工夫を学ぶ。 12月中にほぼ完成させる。
2	9		選択課題	各自の計画に沿って、制作を進める。卒業制作完成	作品を見直し、最終仕上げをする。 上級生の作品や作家の作品の鑑賞を通して、完成度を高めるための技法・表現の工夫を学ぶ。 自分の制作について振り返る。 他者の作品のよさを感じ取る。
	10	2	鑑賞	本制作終了後、相互に批評、評価	
	11	1 4	平面・立体構成	「平面・立体構成」 他者の作品の良さに気づきを考えさせ、自己の主題に基づき表現を工夫する 魅力ある作品とは何かと自問自答させ制作に活かす。	用具、材料について理解する。 全体の構図を確認してから、何度も形を確認して構成を考える。
	12				
3	1	16	平面・立体構成	「平面・立体構成」	作品を見直し、最終仕上げをする。
	2		鑑賞	選択課題作品展示（校内） 相互評価	自分の制作について振り返る。 他者の作品のよさを感じ取る。
	3				

科目（講座名）	美術 I（造形基礎）	2 単位	必修選択
教科書	美術 1（日本文教出版）		

学習の目標

- ・ 1,2 年次美術選択者は、美術 I、II の学習をふまえて表現と鑑賞の能力を一層高める。
- ・ はじめて美術を選択する生徒も、基礎を学びながら表現と鑑賞の能力を育てる。
- ・ 卒業後も美術に親しみ、積極的に楽しんでいく姿勢を培う。

授業内容

共通課題
 保育教育にたずさわるとなると必要とされる物づくりの基本を学ぶ
 作品鑑賞

学習方法

講義
 個人制作
 複製画、DVD やビデオ等による鑑賞

評価の観点

関心・意欲・態度	美術を愛好し、表現の主題や形式などに幅広く関心を持ち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。
芸術的な感受や表現の工夫	感性を働かせて美術のよさや美しさを感じ取り、豊かに発想し創造的表現を工夫する。
創造的な表現の技能	創造的な表現をするために材料・用具を生かして表現する技能を身に付けている。
鑑賞の能力	作者の心情や意図と表現の工夫、生活や自然と美術との関連、日本の美術の歴史などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。

評価方法

上記の観点について、出席状況、授業態度、制作過程や作品・レポート等の提出物の内容、鑑賞時の意見等を、年間を通じて総合的に評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	2	調べ学習	テーマに沿って、調べ学習を行う	テーマを理解し、積極的な調べ学習をしている
	5	2	調べ学習②	保育系大学について 大学ごとの特徴 受験に必要なもの 等	テーマを理解し、積極的な調べ学習をしている
		2	絵画	家から見える景色を描く	家から出ることなく、絵画表現に挑戦している
	6	2	ボールペン画	ボールペンで簡易に物(人物)を描く技術を身に着ける	様々な色を用いたりしながら、物や人物を描く練習をしている
		2	オリエンテーション	一年間の流れを確認する	
7	6	ペーパークラフト	紙の性質を肌で感じ取り、計画に従って制作を進める。	計画をあつて、丁寧な作業で制作をする。完成度を高めるために技能の向上と表現を工夫する。	
2	9	8	現代技法を学ぶ	現代技法(モダンテクニック)を学び、保育のときに役に立つ技能を習得する	現代技法を学び、目的に合わせて技法を使用することができるようにする。
	10	4	色鉛筆制作	色鉛筆の種類や使い方を工夫し、美しく塗る方法を学ぶ。	スケッチを重ね、イメージを顕在化させる。
	11	6	貼り絵・切り絵	カッターナイフの使い方を学び、計画をもって制作をする。	上級生の作品や作家の作品鑑賞を通して、完成度を高めるための技法・表現の工夫を学ぶ。
	12	2			
3	1	8	切り絵・切り絵	各自の計画に沿って、制作を進める。	作品を見直し、最終仕上げをする。周りの生徒との意見交換により、より良い表現を目指す。
	2	2	鑑賞	本制作、相互に批評、評価 卒業制作完成	自分の制作について振り返る。
	3				

科目（講座名）	工芸 I（生活工芸）	2 単位	必修選択
教科書	工芸 I（日本文教出版）		

学習の目標

これまでの美的体験、表現活動や鑑賞などにより得た感性、技術能力等を基に、自分が是非に制作してみたい作品に取組み、その活動を通して完成の喜びを経験し、生涯にわたり工芸を愛好し美術文化を尊重する態度を育てる。

授業内容

共通課題…木工、ペーパークラフト等
 選択課題…興味・関心に応じて課題を選択し、計画的に取り組む
 進路に関わる分野、興味のある分野から自由に課題を設定し、制作に取り組む。

学習方法

共通課題として、木彫で各自が考えた形状のくつべら、及びペーパークラフトを制作する。並行して選択課題の計画案を練り提出。共通課題を終えた生徒から選択課題に入り、納得のいくまで取組み、より完成度の高い作品を目指して制作する。

評価の観点

関心・意欲・態度	自分で決定した案に対して、積極的に取組み工夫して創作活動を続けているか。
芸術的な感受や表現の工夫	機能的であると同時に美しいものになっているか、またその為の表現方法に工夫があるか。
創造的な表現の工夫	個々の特性を生かした作品づくりができているか、またその為の努力、工夫がなされているか。
鑑賞の能力	互いの作品の良い点悪い点を批評し合い、また自己の創作活動を通して身の回りの工芸品や美術品の見方が養われたか。

評価方法

出席状況及び上記の観点について年間の成績を総合的に判断し評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	16	導入	この授業の進め方について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工芸の幅広い分野について理解する。 ・ 木の厚みに注意して図面を書く。
	5		木工（木彫くつべら）	工芸の分野について 木彫でくつべらを制作する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模様の出し方を工夫する。
	6		かご編み	クラフトバンドでかごを編む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 木工道具の使い方を理解する。
	7				<ul style="list-style-type: none"> ・ クラフトバンドを使ってかごを制作していく。 ・ 共通課題制作と並行して自由制作のための材料選び、素材集めなど、各自が責任を持つ。 ・ 個人で立てた計画をもとに制作を進める。
2	9	10	かご編み	クラフトバンドでかごを自由制作	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自、計画通りに制作が進められているかをその都度確認し、完成を目指す。
	10		自由制作	各自で課題を設定し、計画に沿って材料を準備し、制作する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自の計画に基づいて自発的に制作をする。
	11				<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全面に留意しながら制作する。
	12				
3	1	16	自由制作	引続き制作する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員が完成の喜びを味わえるように配慮する。 ・ 安全面に気をつけながら制作を進め、作品を仕上げる。
	2				
	3				

科目（講座名）	書道 I（趣味書道）	2 単位	必修選択
教科書	書 I（光村図書出版）		

学習の目標

- ・基礎的能力を高め、芸術書、実用書への展開を図る。
- ・様々な技法によって書表現し、生涯にわたって書に対する興味が持てるようにするとともに、書の文化や伝統を尊敬する心を育てる。

授業内容

- ・古典法帖の臨書学習
- ・ペン字での実用的な書（履歴書、ハガキや封筒の宛名書き等）
- ・文字を素材とした書表現（漢字仮名交じりの書、小作品）

学習方法

講義と一斉授業

評価の観点

関心・意欲・態度	書道に関心を持ち、課題には積極的、意欲的に取り組み、またより一層の完成度の高い作品制作を心がける。
芸術的な感受や表現の工夫	種々の古典技法や作品にふれて深く理解、鑑賞する能力を身につけ、それを自己表現へとつなげていく。
創造的な表現の工夫	用具や用材について理解、研究し、筆墨のみの表現にとらわれない自由な態度で自己表現する。
鑑賞の能力	自己の感受性を磨き、幅広い作品に目を向け、その美しさが理解できて自己表現の糧としている。

評価方法

- ・臨書力、理解度、個の表現など毎時間の提出物
 - ・授業への積極性、学習態度、出席状況
- 上記の観点について年間の成績を総合的に判断し評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	6	基礎的な字形の学習 漢字	文字を美しく(正しく整えて)書く	普段の自身の文字の癖を把握し、美しい字形とはどういうものか毛筆と硬筆両方を使って確認する
	5	4	ひらがな	字母を確認しながら練習する	字母を知ることによって、より正しい形を理解する 誤りやすい形を確認
	6	8	暮らしの中の書	うちわ作り 和紙を板締め絞りの手法を使って染める 文字書き	うちわに書く文字と色との調和を考える 歳時記から夏の言葉を選び、表現にあった書体と大きさと書く
	7	2	創作	淡墨による創作 一字もしくは二字	淡墨の方法を知る 淡墨による効果を理解する
2	9	6	漢字かな交じりの書	創作 俳句(半紙) 自分の用意した言葉で書く(半切)	季節の俳句を半紙に書く 構成に工夫し作品をまとめる 短歌や詩文、歌詞や名言などから文を選び文字の大きさ、行間、余白、書体、落款に留意し表現方法に合った用具・用材を決める
	10	4	臨書	好きな書体を選び、半切二分の一へ臨書する	字典の使い方を知る 字形のみでなく配置と大きさに留意して作品を仕上げる
		2	実用書	履歴書、往復はがきの書き方	正しい書き方を知り、さらに美しく読みやすくみえるように書き上げる
	11	8	小品作り	大色紙、紙コースター、和紙を使って卓上もしくは壁掛けにする小作品を作る	文字決めから書体、必要な用具用材の正しい使い方を理解し紙コースターへ書く 文字に合った和紙を使って自分らしい作品を作る
	12	4	大字	自分の今年一年を表す漢字 全紙二分の一サイズ	漢字を決め、紙の大きさに合った太さと大きさと作品を仕上げる 落款の位置を考える 半紙に書くときの違いを知る
3	1	2	くらしの中の書	表書き	表書きの決まりを知る
	2	金封の表書き		小筆を使って大きさ、位置に留意しながら書く	
	3				

科目（講座名）	家庭基礎演習	2単位	必修選択
教科書	新家庭基礎（実教出版）		
副教材			

学習の目標

- ・2年次の学習内容を踏まえ、生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を養う。
- ・生活を取り巻く現代社会のさまざまな問題に目を向け、社会に対する認識を深めるとともに、論理的な思考を身に付ける。

授業内容

- ・衣食住に関する現状の生活課題などを自ら発見し、解決していく過程をレポートなどにまとめ、発表する。
- ・課題研究やグループ学習などにおいて、自分の考えや理解した事柄を積極的に表現するなど主体的に取り組む。
- ・実験・実習を通して自立に向けた知識や技術を身に付け、実生活で活用する。

学習方法

一斉授業、実習（調理、被服等）、課題研究、生徒相互による発表・討論、視聴覚教材の視聴

評価の観点

関心・意欲・態度	家族・子ども・消費・経済などに対して、また、それらに関連する制度や法律等に関心を持ち、さらに生きていくうえの知識・技術を習得して、自分の生活をデザインしようとする意欲がある。
思考・判断	学習した内容を理解したうえで、自分の生活課題や社会的な課題を見つけ、解決のためにどのようなことができるのかを思考し、判断した内容をまとめることができる。
知識・理解	自立するために必要な調理技術や、縫製技術等の基礎的技術を身に付けることができる。
技能・表現	人が生きていくうえで必要な「生活」にかかわる基本的な知識を身に付け、理解している。

評価方法

レポート、作品製作、課題研究・発表、授業への取り組み状況を総合的に判断し、評価を行う。
1.2学期は各学期に評価を行い、3学期は1.2.3学期の評価を総合的に評価し、学年の評価を行う。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	26	ホームプロジェクト 住生活	課題の選択	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの生活を見直し、充実向上・改善を必要とする生活課題を発見する。 ・家族の理解や協力を得て、自分の力で取り組めるように計画する。 ・計画に沿って実践する。 ・写真・資料・実験・調査結果などの記録をもとに、結果をまとめる。 ・課題の選択、実施計画、活動の過程を振り返り、反省・評価する。 ・家族や友だち等の評価を受け、報告書にまとめる。 ・住宅の物件情報を読み取り、契約用語や契約トラブルについて理解する。 ・住みやすい住環境づくりや、環境に配慮した住生活について理解する。
	5			実施計画	
	6			実践	
	7			反省・評価 賃貸物件の契約	
2	9	28	食生活 保育 衣生活	食事の計画と調理	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養・食品の知識をもとに、バランスのとれた食事計画（献立作成）ができるようにする。 ・弁当に適した食材や調理方法を用いて、彩りなども考えながら調理する。 ・子どもの遊び・食生活についての理解を深めるため、おもちゃ・おやつを作る演習を行う。 ・絵本を用いた保育者からの働きかけを考える。 ・ミシンを使った縫製技術を身につける。
	10			弁当の調理	
	11			子どもの生活 おやつ作り おもちゃ作り 絵本の読み聞かせ	
	12			トートバックの制作	
3	1	16	衣生活 生活設計	トートバックの制作	<ul style="list-style-type: none"> ・ししゅうやボタンなどの手芸を用いて作品を発展させる。 ・精神的な自立，経済的な自立，生活的自立，性的自立にむけて，これまでの家庭基礎で学んだ技術や知識を確認し，これからの人生を設計できる力をつける。
	2			「自分の人生設計レポート」の作成	
	3				

科目（講座名）	情報の科学		2 単位	必修選択
教科書	最新情報の科学 新訂版（実教出版）		担当教諭	
副教材				

学習の目標

社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる

授業内容

- ・ 情報機器を利用した情報伝達の工夫
- ・ 情報の収集と発信
- ・ 情報の統合的処理と情報機器

学習方法

- ・ アプリケーションソフト等を使ったプログラミング実習を通して問題解決の方法を身につける
- ・ 簡単なネットワークやデータベースを構築する活動を通して、情報通信・蓄積の概念を身につける
- ・ コンピュータなどの情報機器の操作を通して、機器のトラブルに対処する能力をつける。

評価の観点

関心・意欲・態度	情報や情報社会に関心を持ち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとする。
思考・判断	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現している。
表現・処理	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技能を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。
知識・理解	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。

評価方法

提出物，出欠状況，授業態度等を年間で総合的に判断して評定をつける。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	5 6 7	26	ネットワークとデータベースの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークの活用 ・データベース 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークを利用して情報を共有する方法を学ぶ。 ・情報を共有する際の注意点について学ぶ。 ・ネットワークを利用して情報を収集、整理・分析、発表・発信し、評価と改善を行う方法を学ぶ。 ・ネットワークを使う場合と、使わない場合の違いを理解する。 ・データベースの概念と機能について学ぶ。 ・データベースの種類や代表的なデータベースの特徴について学ぶ。 ・データベースの問い合わせ言語 (SQL) について、簡単な例で学ぶ。 ・表計算ソフトのデータベース機能について学ぶ。 ・データベースの定義と身近な活用例について学ぶ。 ・リレーショナルデータベースの設計における正規化について学ぶ。
2	9 10 11 12	28	問題解決のためのコンピュータ活用	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決 ・アルゴリズム 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の定義について学ぶ。 ・問題解決の手順について学ぶ。 ・ブレインストーミングとKJ法について学ぶ。 ・アルゴリズムとプログラミング、モデル化とシミュレーション、データベースと情報検索などの問題解決のための手段を学ぶ。 ・アルゴリズムについて学び、簡単なアルゴリズムをフローチャートで表現できるようにする。 ・順次・選択・繰り返しなどのアルゴリズムの基本構造について学び、文章やフローチャートで表現できるようにする。
3	1	2			